

文章題のめあてとまとめ 解決の道筋

—— 3年「何倍でしょう」(啓林館) について ——

(注：ページ番号は、平成 27 年啓林館のものであります。問題文は著作権の関係で掲載できません。お手数ですが、教科書を参照してください。)

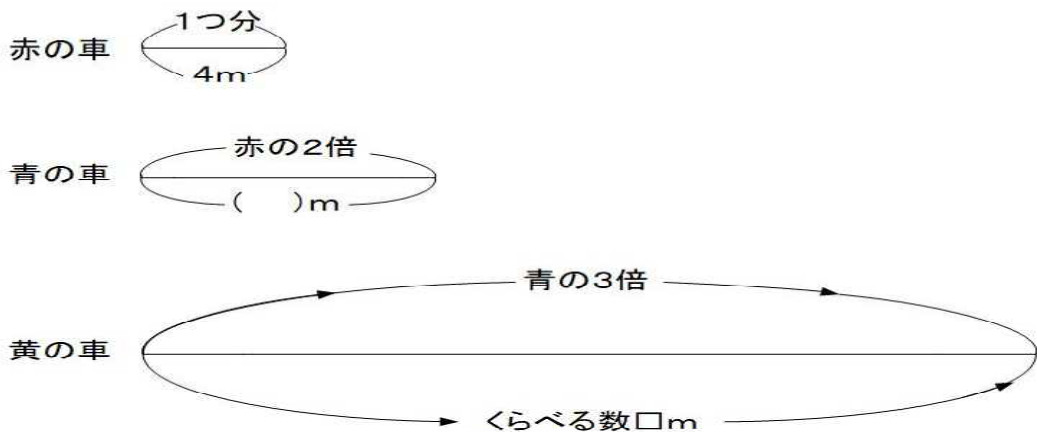
下 p.14 ① $a \times b \times c =$ の問題 (乗法の結合法則の基礎経験)

2 年上 p.108 ①の $a + b + c =$ の問題 及び 2 年下 p.5 ①の $a \times b =$ の問題 と、

本時の $a \times b \times c =$ の問題 とを比べることで、次のような一般化されためあてをつかむ。

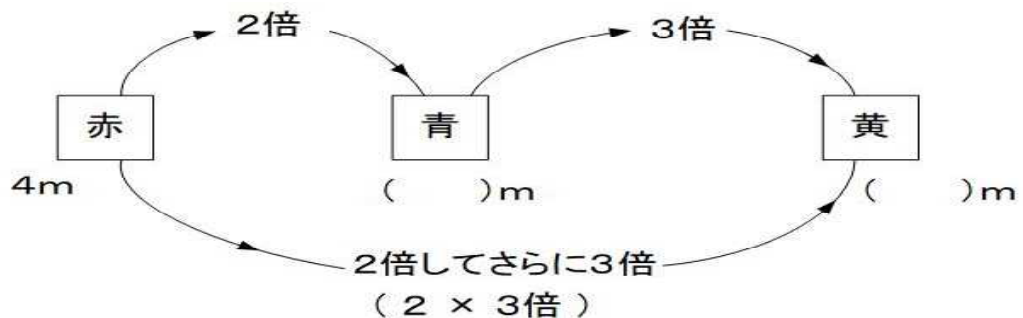
めあて
かける数が 2 つになった時の、くらべる数の もとめ方を考えよう。

図



めあてに振り返って、かける数が 2 つになっても、何の何倍か(くらべる数ともとにする数の関係)を分かりやすくする必要があるので、図をかき直す。

図



式 ・ $4 \times 2 = 8$ $8 \times 3 = 24$ 答え 24 m
 ・ $2 \times 3 = 6$ $4 \times 6 = 24$ 答え 24 m

まとめ
かける数が 2 つになった時の、くらべる数を もとめるには、じゅんに計算したり、何倍になるかをまとめてから計算したりする。

★ p.14 を順々にかけるページ、p.15 をまとめてかけるページとしたりせず、一方の解き方ができた児童に他の解き方を考えるように促したり、学級全体で話し合う場面で、他の解き方に触れたりして、しだいに結合法則の基礎経験が主体的にもてるようにし、それぞれの解き方を説明する場面では、対話的な学びが進むように理解を補ったり、多様に考えることを称揚したりすることが望ましい。
 次単元「⑩計算のじゅんじょ」では、どちらの解き方でも答えが同じになることに気付くようにして、深い学びに至るようにしたい。